

教学 IR を根拠とする教育改善の事例紹介（2026 年）

IR 室

本学では、アセスメント・ポリシーに則り、IR 情報の結果を分析し、教育改善に資する取り組みを行ってきている。そして、授業評価アンケートの結果等をもとに、ティーチングポートフォリオ（TP）を作成し、自身の教育観を高め、一貫性のある教育活動を継続して展開している。また、各学科において授業評価アンケートおよび教員による TP の分析・情報共有を通じ、本学全体として質の高い教育の実践と教育改善が行っているが、さらなる教育成果の向上に向けて以下の留意事項について、研修等でも共有し、教授法、指導法の改善を進める。

【本学の教育改善の留意事項（2026 年度）】

***授業外学習（予習・復習）の強化**

授業評価や学習時間調査において、授業外学習時間が十分でない実態が示されており、学生に対する予習・復習の重要性の周知や具体的な指導方法の検討が求められる。

***教育手法の多様化と連携強化**

ICT を活用した教育の充実や、学生の多様な学習特性に応じた柔軟な指導方法の確立に向けて、各教員が FD 研修を通して連携を深め、取り組みを推進していくことが期待される。

***DP（ディプロマ・ポリシー）と授業改善の連携深化**

個別授業の改善にとどまらず、DP 達成とのつながりをより一層意識した議論・検証を組織的に推進していく必要がある。